



普賢菩薩

文この菩薩は、五人の如来が描かれた五智宝冠をかぶります。五智とは仏の総ての智慧のことで、それを頭にいただいているということは、そのもの自身が仏の智慧を有しているということの証しです。

密教では本来皆仏心を有し、仏の智慧を具えているのだと説きます。

この普賢菩薩は私達の本来の姿を示してくださっているのです。この菩薩の真言は「オン サンマヤ サトバン」といいます。これは衆生（サト）と仏（バン）とは、本来不二平等（サンマヤ）であることを示してくださる菩薩に帰依いたします、何卒我々を守護して本来の仏性を開顕せしめたまえ、という意味になります。

しかし、私達の日常はなかなか仏の生活というわけにはまいりません。そこで、右手の三本の指を伸ばした三業妙善印が、身・口・意の三つそれぞれについて、見直しながら進みなさいと教えてくださいます。

私達の日常は、身→行いと、口→話すことと、意→心に思うことの三つでなりたっています。行いだけが目を引いてよく見えても、心が伴わなければなりませんし、口でえらそうなことを言っても何もせずではいけません。正しい心にもとずいて、目立たなくても確実な行い、仕事をするのができ、災いをつくらぬ言葉の話し人。それに心がけなさいと示してくださっています。さらに左手の火焰をまとった剣が教えてくれます。しかし、そうは言ってもそこには無明の迷いや、わがまま、自分だけの都合が顔をのぞかせます。そんなとき、常に心に剣を持ち、切り落としていく勇気を持ちなさい。完成はしないけれど、努力の炎を消すことなく、少しずつでもいいから智慧の剣から炎を出し続けなさい。そこに仏として生きる姿が見えますと、普賢菩薩は語ってくださっています。